QUALITY ASSURANCE
JIC
REGISTERED
ORGANIZATION
No.0430-ISO9001
ISO9001認証取得



INNER FIRE

情熱とは、あなた自身の内なる炎。
一途にトレーニングに励むときも、
戦いに敗けても挫けず
何度も果敢に挑戦し続けるときも、
熱く、まばゆく燃え続ける。
熾烈な戦いのなかで、
すべての敵を焼き尽くしてしまうまで。



■ 日本リーグ唯一の公式試合球
■ 全日本実業団連盟主催大会唯一の公式試合球

32H312Y ヌエバ ¥6,825(本体価格¥6,500)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・3号球
カラー（黄×黒）

32H212Y ヌエバ ¥6,615(本体価格¥6,300)
国際公認球・検定球・縫い・人工皮革・2号球
カラー（黄×黒）
(標記の価格はメーカー希望小売価格)

夏の大会を前に



㈶日本ハンドボール協会 常務理事　**江成　元伸**（競技運営部長）

夏の各種全国大会を直前に控え、大会に出場するチームは最後の追い込み練習に全力をあげている頃かと思います。予選を突破し、多くの関係者の期待を一身に浴び、日頃の成果を十分に発揮して欲しいと期待しています。また、惜しくも全国大会の切符を逃し、新チームに切り替え、心機一転して再スタートを切り、夏の厳しい練習を続けているチームも多いかと思います。秋のシーズンに向け、猛練習を重ね、新しいハンドボール勢力を作るべく精進して欲しいと願っています。

日本協会は協会に登録したチーム、個人登録した選手の活動を支援する普及活動と、日本代表チーム、選手を支援する強化活動を二本の柱としています。大会の充実は、ハンドボール発展の基盤と考えています。昨年度、全国どこでも同じ環境で競技ができるようにと「大会開催マニュアル」を刊行しました。

ハンドボールの熱い思いを全国大会観戦という、喜びや感動を共有できるような方法を通して、見つけていってほしいと願っています。

さて最近、協会に登録しないでハンドボールを楽しんでいるグループがあると聞いています。登録していない人たちにも協会を中心とした同じ環境でハンドボールをして欲しいと希望しています。このような状況から、日本協会は登録制度・方法の見直しを検討することになりました。ハンドボールが大好きな人たちは全て協会に登録し、全ての人たちが協会を中心とする組織を構成していきたいと考えています。是非お考えをお寄せ下さい。新しい時代のハンドボール社会を一緒に作りたいと考えています。

これらの動きの中で、従来の登録制度のカテゴリーの見直しを検討したいとプロジェクトチームを組織しました。この中には、登録金の改訂も視野に入れています。適切な登録金制度になるよう多くの意見を求めています。よろしくお願いします。

最後になりましたが、夏の大会や練習が皆さん方の今後のハンドボール界の発展の基盤となります。けがや事故がないよう楽しく、そして輝くハンドボールとなるよう期待しております。

※お考え、ご意見のある方は日本協会（handball@japan-sports.or.jp）までお寄せ下さい。

速報 第８回アジア女子ジュニア選手権（兼 2005 年世界女子ジュニア選手権アジア予選）

過去最高のアジア２位で 世界選手権出場権獲得

2004 年７月１日（木）～７月８日（木）まで、タイ・バンコクにおいて、日本、韓国、チャイニーズ・タイペイ、中国、タイ、カザフスタンの６チームが参加して標記大会が開催された。大会は、開幕直前にウズベキスタンの不参加により、急遽１リーグ制に変更され、１回戦総当りで本大会の上位３チームが 2005 年世界女子ジュニア選手権を獲得することとなった。日本は韓国に敗れはしたものの４勝１敗で堂々の２位、過去最高位で 2005 年世界女子ジュニア選手権（チェコ）出場権獲得した。



【最終順位】

１位　韓国　５勝	２位　日本　４勝１敗
３位　中国　３勝２敗	４位　チャイニーズ・タイペイ　２勝３敗
５位　タイ　１勝４敗	６位　カザフスタン　５敗

▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶▶ 日本チームの戦い ◀◀◀◀◀◀◀◀◀◀◀

【第１戦目：７月１日（木）】

日本　34（20- 5, 14- 4）9　タイ
（１勝）　（１敗）

オープニングゲームとなった初戦。野路のサイド、高橋の連打で３連取した日本は、その後も荒木の速攻や大城、高橋らでタイを突き放す。後半、立ち上がりから中盤まではなかなかリズムに乗り切れなかったが、横嶋、山下（詩）、内平らでリードを広げ、危なげなく初戦を飾った。

【得点者】高橋７、野路５、大城４、横嶋・山下（詩）・内平・荒木３、吉田・石立２、細木、山下（裕）１

【第２戦目：７月３日（土）】

日本　28（15-12, 13-14）26　カザフスタン
（２勝）　（２敗）

重苦しい立ち上がり、石立のカットインで先制するも、サイド・ロングなどでリードを許す。しかし高橋、山下（詩）の７mT などで追いすがり、内平の連取で逆転に成功し、前半をリードして折り返す。後半立ち上がり、下地の好守からリードを広げ、15 分過ぎまで６点差の攻防を繰り返すが決め手にかける。残り２分、２点差とされるが、石立、横嶋でなんとか逃げ切った。

【得点者】石立６、吉田（薫）５、高橋・荒木４、横嶋・山下（詩）・内平・大城２、野路１

【第３戦目：７月５日（月）】

日本　31（12-15, 19-10）25　中国
（３勝）　（２勝１敗）

高橋のカットインで先制するも、5-1DF が機能せずリードを許す。GK 下地の好守に石立、高橋で必死に追いすがるも３点アヘッドで折り返す。後半、6-0DF に切り替えると６分には追いつき、一進一退の攻防になる。DF の粘りと GK 久染の好守で 15 分に石立、内平、山下（詩）の連打で抜け出す。最後は大城、高橋の得点で逃げ切った。

【得点者】高橋 14、石立５、内平４、大城３、吉田（薫）・山下（詩）２、荒木１

【第４戦目：７月６日（火）】

韓国　32（14- 6, 18-12）18　日本
（４勝）　（３勝１敗）

立ち上がりから足が動かず攻めあぐみ、速攻等で連続失点を許す。山下（詩）のサイドや高橋らで応戦するも前半８点のビハインドで折り返す。後半も荒木の速攻や内平、大城らでなんとか追いすがるが、差を詰めることができず、完敗の結果となってしまった。

【得点者】高橋６、内平４、山下（詩）３、荒木・大城２、山下（裕）１



【第５戦目：７月８日（木)】

日本　35（18-17, 17-12）29　チャイニーズ・タイペイ
（４勝１敗）　（２勝３敗）

野路のサイドで先制。得点するものの DF が守りきれず、拮抗した展開となる。中盤にようやく抜け出し５点差とするも、退場等で追い上げられて１点差で前半終了。後半も相手の攻守にてこずり、遂には逆転を許してしまう。ここでピンチを救ったのが GK 下地。相手シュートをことごとくはじき返し、その間に横嶋、高橋、内平、石立、大城らで突き放し、勝利、本大会韓国に次ぐ２位となった。

【得点者】高橋 12、横嶋・大城５、石立４、野路・吉田（薫）・内平・荒木２、山下（詩）１

役員・選手団名簿

団長	大西　武三	㈶日本ハンドボール協会
監督	堀田　敬章	㈶日本ハンドボール協会
コーチ	小林　寛二	金津高校
コーチ	北野　香代	九州女子短大
ドクター	甲斐　功一	井上病院
トレーナー	陣上　修一	熊本赤十字病院

	氏名	所属先	出身校
GK	久染　亜衣	大阪教育大学	香川中央高校
	下地　ゆいの	筑波大学	那覇西高校
CP	棚原　ジェイミ	オムロン	北谷高校
	細木　久未	オムロン	夙川学院高校
	野路　里子	北國銀行	福井商業高校
	吉田　薫	武庫川女子大学	夙川学院高校
	横嶋　かおる	北國銀行	高岡向陵高校
	由田　千草	茨城大学	小松市立高校
	山下　詩穂	筑波大学	小松市立高校
	高橋　恵	桜花学園高校	—
	内平　亜希	小松市立高校	—
	小松　史果	熊本国府高校	—
	荒木　佳子	暁高校	—
	石立　真悠子	小松市立高校	—
	山下　裕美子	桜花学園高校	—
	大城　夕貴	浦添高校	—





JHL速報

男子オールスター戦／全日本女子アジア女子選手権大会壮行試合

熊本県・山鹿市総合体育館において7月11日（日）標記大会が開催された。試合後にはファンとの交流が行われたり、TV放送がされたりハンドボール王国熊本ならではの盛り上がりが観られた。

男子オールスター

ALL EAST　28（14-14,14-13）27　ALL WEST

【戦評】ALL WESTスローオフでスタートした試合、まずゲームの主導権を握ったのはALL WEST。7番中川の先制に始まり、開始12分で6対3と3点リードする。しかしALL EAST5番の豊田のロングシュート、6番太田のステップシュートなどで追い上げたALL EASTが前半残り10分、9対9の同点に追いつく。その後は一進一退の攻防で前半を14対14の同点で折り返す。

後半に入っても両チーム一歩も引かず、ALL EASTは5番豊田のステップシュート、3番阿部のサイドシュートなどで得点を重ね、一方ALL WESTも9番宮崎を中心とした攻撃で得点を重ねていく。そして試合時間残り2分にALL EAST4番福田が得た7mTを5番豊田が確実に決め、ALL EASTがこの1点を守りきり28対27で勝利した。

MVPには9得点と大活躍したALL EAST5番の豊田が選ばれた。ALL WEST9番宮崎も高い打点からのシュート、早いパスワークで観客を沸かせ、MVP張りの活躍をみせた。

表彰選手

MVP：豊田賢治（ALL EAST・大崎電気）

MIP：宮崎大輔（ALL WEST・大崎電気）

敢闘賞：坪根敏宏（ALL WEST・湧永製薬）



男子MVPに輝いた豊田賢治選手

全日本女子アジア女子選手権大会壮行試合

全日本女子チーム　26（15-0,11-16）26　日本リーグ選抜チーム

【戦評】全日本11番吉田の7mTで試合の幕は切って落とされた。全日本は5番田中のカットインと見事な連携の速攻で順調に得点を重ねていく。しかし得点が離されそうになるとリーグ選抜8番郭のミドル、カットインで追いすがり、5点差で前半は終了した。後半立ち上がり、全日本は2連取しこのまま突き離すかに思われたが、2番中村の退場でリズムを崩し、リーグ選抜に6連取されて2点差になる。全日本4番青戸選手の負傷退場もあって全日本は苦しい展開になるが、5番田中の8点目となる得点から4連取し、試合を決めたかに思われた。しかしまた3番中村の失格から4連取を許し同点になる。一進一退の攻防から全日本7番坂元のシュートがGKに阻まれ試合終了、引分けに終わった。

前半は万全な展開だっただけに、この実力を広島でのアジア選手権で発揮してくれることを期待したい。

表彰選手

MVP：田中美音子（全日本・ソニーセミコンダクタ九州）

MIP：飛田季実子（全日本・ソニーセミコンダクタ九州）

敢闘賞：郭　惠靜（日本リーグ選抜・ソニーセミコンダクタ九州）



サインに応じる女子MVPの田中美音子選手

埼玉県ハンドボール協会 副会長

遠藤 健次氏

旭日双光章 受章のお祝い



このたび、埼玉県ハンドボール協会副会長遠藤健次氏が、平成16年春の叙勲におかれまして、旭日双光章の栄をお受けになりました。心よりお祝いを申し上げます。

ハンドボールとの歩み

遠藤健次氏は、昭和23年4月、茨城県立麻生高等学校入学とともにハンドボールに手を染め、昭和25年には茨城県代表選手として第5回愛知国体に出場されました。

昭和26年、高校卒業と同時に日本体育大学に進学、11人制時代（ハンドボール競技は1960年に世界的に7人制に統一され現在に至っている)のバックスとして、昭和28年、29年には全日本学生王座決定戦（現在の全日本大学選手権）にレギュラーとして出場、決勝戦まで駒を進めています。

昭和30年3月、日本体育大学体育学部を卒業、同年4月より浦和市立都北高等学校（昭和32年浦和市立高等学校に校名変更、平成13年さいたま市発足に伴い、現在はさいたま市立浦和高等学校）に奉職、平成5年3月、38年間勤務した浦和市立高等学校を定年退職されました。

浦和市立都北高校奉職と同時にハンドボール部を創設、昭和32年には日本代表として国際試合に出場され、その競技力の中で培われた指導技術を見事に開花させ、浦和市立高校38年間において、男子部インターハイ8回、関東大会19回、女子部インターハイ1回、関東大会15回の出場を果たしました。また、昭和42年の第22回国民体育大会（埼玉国体）では、監督として埼玉教員チームを率い、総合優勝の一役も担いました。

二足のわらじを履いて

このような中、選手の育成のみならず、県内に赴任した多くの指導者に対し、指導者としてだけでなく、教員としての資質向上を訴え、精力的に後継者の育成に努めていきました。氏の影響を大きく受けた多くの後継者たちは、のちに「ハンドボール王国埼玉」の形容のもと、数々の実績を残していきます。

埼玉国体も無事に終了し、氏の意志を引き継ぐ優秀な指導者が多数育ってくると、その後は県ハンドボール界発展のため、率先して裏方にまわり、その力を余すことなく発揮されました。現在の埼玉県ハンドボール協会の円滑な大会運営、飛躍的な競技力向上、役員養成、組織編成など、さまざまな協会運営の基盤は、氏の功績によるものであると言っても過言ではありません。さらに周囲からは、氏なくしては県組織が成り立たないとまで言われ、理事から副理事長、そして理事長に就任されました。また、本県のみならず、関東高等学校体育連盟、全国高等学校体育連盟等からの要請も受け、高体連副部長、高体連専門委員長、全国高体連副部長を歴任されました。その当時のことを、「浦和市立高校の自らの教え子たちを顧みる暇もなく、本当に申し訳なかった」と教え子たちを気遣っておられます。このように、多くの機関からの要請に、まさに二足のわらじを履いた状態であったことと思われます。

今後のますますの御活躍を祈念して

以上のように、現在の埼玉県におけるハンドボールは、氏なくしては語れません。埼玉県に高校教師として奉職以来、また退職後から現在まで、埼玉県のみならず、関東、全国へと目を向け、ハンドボール競技の普及・発展のために御尽力いただきました。氏の今後のますますの御活躍と御健康を祈念いたしております。また、これまでの氏の功績に感謝するとともに、ここに改めてお祝いの言葉を申し述べさせていただきます。

埼玉県ハンドボール協会 一同より

日本リーグ監督会議：特別講演会

私のコーチング



サッカー日本女子代表監督　上田 栄治

2004年4月24日、サッカー日本女子代表チームは、満員の国立競技場で北朝鮮を3－0で破り、みごと勝利、アテネオリンピック出場権を得た。代表監督上田栄治氏に、5月16日、青山メトロ会館で行われた日本リーグ監督会議の席上、講演をお願いしました。今号では、その講演要旨を掲載致します。



今日は。ハンドボール日本リーグ監督の皆様の前でお話しをさせていただき光栄に思います。私がハンドボールと聞くと一番に思い出すのは、スウェーデンから来たオルソン監督のことです。先日はオルソン監督の指導を受けた田中茂さんから直接お話を聞くことも出来ました。体力・体格でヨーロッパ勢に劣る日本人が勝つためにはどうすればいいのか。筋力を増やす、食事の取り方、モチベーションの与え方、オルソンの課題は、そのまま私の課題でもありました。

◆女子代表監督となる

日本女子サッカーのレベルは世界的には高いものではありません。世界トップのドイツと日本は体格面では大人と子供のような関係です。リーチ、スピード、パワー全てにおいて劣っており、相手から受けるプレッシャーは相当で、プレーエリアも制限されてしまいます。コンタクトスポーツであるサッカーでは、身体的劣性は大きなハンディです。

代表監督として初めての合宿で選手を見た時に驚いたことがあります。それは30名の選手達の目がギラギラと輝いて、私を見ていたことです。練習では、与えられた課題にひたむきに取り組み、ミーティングではペンを離さない彼女たちの素直さを再認識しました。これが日本人の強みです。ベルマーレで監督をした後、マカオの代表監督を経験した私は直感的に彼女たちは勝てるという自信を持ちました。

◆プレッシャーの中で得たもの

最初の目標はアメリカ・ワールドカップ（WC）に出ることでした。オリンピック出場権はアジアから2チームですが、WCはアジアから3チーム＋0.5（プレーオフ）です。アジア予選で韓国に敗れた日本はアジア4位となり、プレーオフでメキシコと出場権をかけて戦いました。アステカでのアウェー初戦、高地、長期移動、水、食べものなど様々な障害が立ちふさがります。特に、体調不十分、9万の超満員の観衆、その中での戦いは彼女たちを変えました。この経験がなければ、4月24日はなかったと思います。アウェー、ホームと勝ち2003アメリカでのWCに出場しました。

この大会も我々にとっては収穫の多いものでした。結果はアルゼンチンには勝ったもののドイツ、カナダに破れ予選敗退。特にアルゼンチン戦ではサイドからの攻撃が有効であることがわかりました。この大会を分析し、次のオリンピック予選までの課題を明確化させることができたのです。

◆世界のトップを目指すために

世界のトップを目指すには、①体力・体格差にどう対応するか、②日本人の特性を生かすプレーとは何か、③1対1の劣性を組織の数的優位で克服する、④組織と個性を生かすためのチーム・ハーモニー、⑤男子サッカーに近づける、ということでした。

オリンピック予選の組み合わせは早くから決まっていました。オリンピックに行くためには2位にならなければならない。そのためには4月24日の北朝鮮戦に勝たなければならない。目標は決まった、あとはそれまでの70日間に何をするかです。この間、代表チームは50日間の合宿を行いました。WCの分析をもとに、体力面のレベルアップ、全身持久力アップ、間歇的持久力のアップなどと、全員が同じ場面で同じイメージが持てるようにチームコンセプトの確立につとめました。

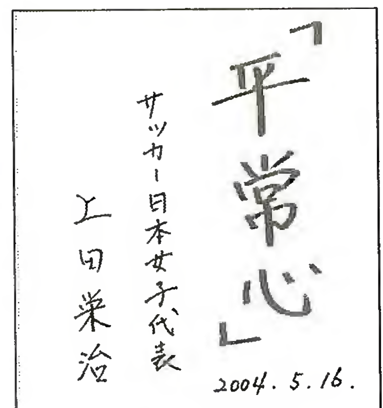
コンパクトな守備、数的優位の確立、早い攻守の切り替え、ダイレクトパスの活用、敵の背後をつく飛び出し、サイド攻撃、これらのプレーの徹底です。

最後のシュートシーンをイメージし、その過程を全員が共有できるまで練習しました。そのためにはビデオが有効でした。これを我々は「マッチ－トレーニング－マッチ」と呼んでいます。トレーニングをゲームにフィードバックできることが一番大切だと思います。

結果は皆さんご存じの通りです。以上、当たり前のことを行ってきただけかもしれませんが、もし質問があればその中でお答えできればと思います。ご静聴有難うございました。

＊

市原日本リーグ機構会長（日本協会副会長）から、「いい指導者はいい経験を持っている」と謝辞が述べられ、以下質疑応答が行われました。



質疑応答

Q　オルソンの指導についてどう考えるか。
A　理にかなっており、学ぶべき点があるが、長期的計画のもとにすすめる必要がある。またサッカーにおいては90分間走るだけの耐久力も必要。なので、この点も考慮に入れなければならない。

Q　ゴール精度を上げるためにはどうすればよいのか。
A　キックの技術の問題なのか、シュートに持ち込むタイミングが悪いのか見極める必要がある。タイミングの悪い選手とはスタッフが同じビデオを見ながら議論をする。サッカーではチャンスが少ない分精度を上げることは大切です。

Q　スーパー少女の発掘について。
A　ＤＦ、ＧＫにはサイズが必要条件。長身選手の発掘には力を入れている。

Q　練習マッチはどの様に行っているのか。国内に代表チームより強い女子チームはないと思う。
A　今までは国内女子の実力は男子中学生と言われてきた。しかし、今回はＪビレッジ（福島）周辺の高校生と練習マッチを行った。

Q　男子に比べて女子選手は、自分からアイデアを出すと言うことが少ないと思うが。
A　その通りである。女子は言われたとおりのことをしようとするが、徐々にではあるが自分で判断できるようになる。その場面で、どちらに動いたらいいのかわかるようにするのが指導者の仕事である。

Q　男子と女子のマネージメントの違いは何か。
A　基本は変わらない。今回、私は女子を男子に近づけるため練習のレベルを上げた。対応も男子と同じにした。

Q　選手の所属チームとの連携はどうしているのか
A　チームを訪問して話し合う。大学、リーグの中には環境が十分といえないところもあるので、自チームでの管理もお願いしている。

Q　チームコンセプトで、同じイメージを持つ指導はどの様にしているのか。
A　選手と指導者が同じビデオを一緒に見、話し合うしかない。その際のビデオは試合のものが多い。

Q　対メディア対策、特に注目度が集まってきてから選手の平常心を保つために特にしていることはあるか。
A　メディアに対してネガティブな発言は出来ない。メキシコでのプレーオフの経験はあらゆる環境、プレッシャーを克服するいい経験となった。女子サッカーは注目されればされるほど能力を発揮できるようになってきた。

Q　選手のモチベーションを高めるためにはどうするか。
A　パフォーマンスの落ちてきた選手がいたら落とす。チーム内での競争が大切で、取り組みの姿勢の悪い選手も落とす。そうすることで選手自身が対応できるようになる。

Q　代表監督の役割とは何か。
A　私はプロコーチであるから結果を残すこと。マネージャー、テクニカルサポート、ドクター、コーチをまとめることも大事な仕事である。


左から松井男子監督、上田氏、緒方強化委員長、西窪女子監督

上田栄治氏プロフィール（昭和28年12月22日生まれ）

千葉県館山市出身
青山学院大学卒業
- フジタ工業サッカー部（現・湘南ベルマーレ）へ入部し、フォワードとして活躍。
- 昭和58年から平成4年までフジタでコーチを務め、平成5年Ｊリーグ発足と同時にベルマーレ平塚へ。
- 平成8年　日本サッカー協会強化委員会ナショナルトレセンコーチ。
- 平成10年　Ｓ級ライセンスを取得、日本協会技術委員会ナショナルトレセンチーフコーチ。
- 平成11年　ベルマーレ監督を経て、日本人初の海外Ａ代表監督としてマカオ代表監督に就任。
- 平成14年　女子サッカー日本代表監督に就任。同年10月釜山アジア大会銅メダル獲得。
- 平成15年　4大会連続となるＷ杯出場に導く。
- 平成16年　2大会ぶりの五輪となるアテネオリンピック出場を決める。



2004 学生ドッジボールフェスタ

特別企画　関東学生ハンドボール菅記念春季ミニミニカップ男・女決勝戦

日本ハンドボールリーグ機構GM　田中　茂



まず始めに、昨年度日本ハンドボールリーグプレーオフ大会を思い出してください。

エキジビションとして日本ドッジボール協会の協力で小学生による競技ドッジボールを実施致しました。このことが大きなきっかけとなり、今回表記大会が開催され、学生ドッジボール大会に多くのハンドボール選手が参加いたしました。

関東学生ハンドボール連盟の協力のもと、競技間交流として関東学生ミニミニカップ男女の決勝戦を行うことで、ドッジボール大会参加を学生に呼びかけていきました。

大会自体は学生チームが男子 21 チーム、女子 10 チームと少なかったこともあり、ドッジボール協会のご配慮により小学生 16 チームによる交流戦も組んでいただき、東京体育館がいつものハンドボールの試合会場とはまた違った雰囲気で盛り上がりました。多くのハンドボール選手は小学生の時に経験したドッジボールとはまた違った競技ドッジボールのルールに最初戸惑っていましたが、ルールを理解し経験することでドッジボールの楽しさを十分楽しんだのではないでしょうか。

試合を重ねるに従いバラバラだったチームの動きが、勝つための方法を考え真剣になって試合に望んでいたのがすごく印象的で、最後は勝敗にすごくこだわった白熱したとてもいい試合であったし、大会であったと思います。

また、今後もドッジボール協会の協力を仰ぎ、ドッジボール、ハンドボールの両競技が協力し競技力向上、普及活動につながればと考えています。

最後になりましたが、この大会を開催するにあたり、日本ドッジボール協会様には大会運営のほとんどを行っていただき、またご協力いただきました関係各位様、誠にありがとうございました。

2004 学生ドッジボールフェスタ 大会結果

【男子の部】

優　勝	禁 18 レイカーズ（千葉県八街市）
準優勝	明大ハンドボーイズ（明治大学）
第 3 位	二之三メタルドラゴンズ OB（葛西地区）
	けんちゃんず（早稲田大学）

【女子の部】

優　勝	2929sisters ゴルゴ（国士館大学）
準優勝	東京女子体育大学
第 3 位	乙女 12 まっちょ（日本体育大学）
	昭和女子大学附属昭和高校 B

2004 年菅記念ミニミニカップ春季大会結果

【男子決勝】

日本大　32（12-12, 20-13）25　日体 B

【女子決勝】

筑波大　19（8- 4, 11- 6）10　国士 A

日本ドッジボール協会からのメッセージ

2004 学生ドッジボールフェスタを開催して

日本ドッジボール協会理事長
鶴見　修治



東京体育館を会場に、(財) 日本ハンドボール協会後援、関東学生ハンドボール連盟の協力で 6 月 20 日、「2004 学生ドッジボールフェスタ」を開催しました。当日は、男子 21 チーム、女子 10 チームが参加し、小学生の交流会も 16 チームが参加して盛大に行われました。また、大会の間に「関東学生ハンドボール菅記念ミニミニカップ男女の決勝戦」をおこない、参加した小学生からは驚きの声がこぼれておりました。

ドッジボール協会は、設立以来小学生を対象に多くの大会を開催して参りました。ドッジボールは古くから小学校の体育の授業で誰でも経験しています。しかし、競技スポーツとして、生涯スポーツとしてはまだまだ知られておりません。当協会は、広く国民の健康増進を図り、またアジア、世界の国々との文化交流の架け橋になれればと今日まで努力して参りました。

当協会森喜朗会長と、ハンドボール協会副会長の市原則之氏のご縁で本年 3 月の日本リーグプレーオフでドッジボールがエキジビションとして紹介されました。また、当協会副会長の西山逸成はハンドボール協会医事委員長として長年活躍をされています。縁浅からぬ両協会によりこの様な大会が催されたことは大変喜ばしい限りです。

今では 10 年前にドッジボールで活躍した小学生が、ハンドボールに進み、今大会でも第 2 位になるなど、ドッジボールで投力のある小学生が将来ハンドボールで実力を発揮したり、ハンドボールを大学まで経験された方が地域指導員としてドッジボールに参加されますことを歓迎致します。今後もこのような大会を通し、両協会が互いに発展しますことを切に希望致します。

最後になりましたが本大会を開催するに当たってご協力いただいた、日本ハンドボール協会、関東学生ハンドボール連盟、ドッジボール関東ブロック連絡会、JDBA 公認審判員の皆様、その他協賛企業の皆様にこの場をお借りしましてお礼申し上げます。　(写真左が鶴見理事長、右は川島事務局長)

運営スタッフの声

初めてのドッジボール
(大会スタッフとして参加して)



関東学生ハンドボール連盟学連委員
小島　康次 (日本体育大学 3 年)

私は、今回この大会に参加して、ドッジボールは小学生から大人まで誰でも参加できるスポーツで、体を動かすことのすばらしさを教えてくれるスポーツだということを感じました。しかし、ドッジボールは小学生までしかクラブとして行っていません。中学生からは、ドッジボールをやる機会が減ってしまうというのです。その意味でも、このような大会はとても貴重だと思います。

チーム一丸となって、一つの球を捕球したり投げて相手を狙って勝敗にこだわるところは、すごい魅力がある競技です。私は、ハンドボールをしているので普段人にボールを当てると言うことはしないのですが、実際ドッジボールをやってみると似ている部分がいくつかありました。そして、戦術などを練って選手一人一人が一生懸命な姿だったところがとても印象的でした。

今回このような大会が開催され、スタッフ、選手として参加できたことは、とても素晴らしいことでした。また、選手達を支えている役員の方々、スタッフの皆さんのご協力なくして大会が運営されないことを改めて感じました。我々素人にも楽しく競技させてくれた皆様に感謝致します。これからも、このようなドッジボール大会を開いていただき、いろいろな人との交流をしていくことは大事なことだと思います。日頃自分のスポーツでは感じられないことを、小さな事でも異なったスポーツから学ぶことが出来ると思います。きっと、そのことだけでも、その大会は成功だと思います。これからも、交流をする機会を増やしていただき、一人でもドッジボールの楽しさ、またスポーツの楽しさを伝えていただければよいと思います。

今回のドッジボール大会への参加は、非常によい経験をさせていただきました。ありがとうございました。



(財)日本ハンドボール協会指定平成15年度実践研究推進校中間報告

学校体育検討専門委員会委員長　佐藤　靖（秋田大学教育学部）／秋田大学大学院教育学研究科　丸井一誠

（財）日本ハンドボール協会に提出された小学校におけるハンドボールの授業実践研究（中間報告）の概略を紹介いたします。

秋田県湯沢市立湯沢東小学校（6年生）
佐々木敏先生

佐々木敏先生の実践（「ハンドボール」）では、「みんなが楽しくできるように」なることをねらいにした。方法として、柔らかいボールを使用し、男女でシュートラインを分け、作戦の工夫を促した。さらに、シュートを上手にできるようにゲームを中心に進めた。その結果、女子にも多くのシュート機会を得られ、特定の子にボールが集中することなく、喜びや満足を感じることができたとしている。課題として、男女混合のチーム編成に限界を感じることがあるという点をあげている。また、ディフェンスの指導や、外部講師の活用の仕方に問題があるとしている。

山形県尾花沢市荻袋小学校（5・6年生（合同））
植木昌喜先生

植木昌喜先生の実践（「ハンドボールでボール運動のレベルアップ」）では、基礎技術と意識的な動きを身につけ、チームで決めたことを意識して行うことができ、みんなで楽しめるようにルールを工夫できるようにすること（審判もできるように）をねらいとした。方法として、ルールの話し合い→作戦と練習→ゲームの流れで行った。その結果、柔らかいボールを使用することによって、恐さを回避し、意欲的に取り組めたこと、そして運動するだけでなく、作戦を立てることも大切と意識し、それに基づいた練習ができるようになったとしている。また、ほかの学習につながり、効果的な学習ができたという。課題として、あまりシュートのうてない子どもの手立てをどうするかという点をあげている。

山形県鶴岡市立加茂小学校（6年生）
鈴木昭彦先生

鈴木昭彦先生の実践では、方法として、パスゲーム、シュート練習、ドリブルリレー、ゲームを行った。その結果、子どもが特に意欲的にシュート練習を行い、女子も得点を多く入れたことにより楽しめたということを報告している。パス、キャッチミスが非常に多く、パラレル、クロスのメニューに対し、自信が持てない様子だったとしている。課題として、基本練習の仕方をあげている。

茨城県岩井市立岩井第二小学校（5年生）
野口美千代先生

野口美千代先生の実践（「仲間と関わり合いながら、みんなが夢中になれる授業づくりをめざして－第5学年におけるハンドボールの指導を通して－」ビデオ資料としてCD送付。）では、仲間との関わり合いながら、みんなが夢中になれるようにすることをねらいとした。方法として、ドリルゲーム、課題ゲーム、確かめのゲームを行い、ルールを簡略化し、得点方法、教材や場を工夫した。その結果、人間関係作りが改善したこと、スキルチェックから技能と体力が向上したこと、そしてハンドボールへの子供の興味・関心が高まったということを報告している。課題として、チームの編成の仕方をあげている。

神奈川県川崎市立南生田小学校（高学年）
野原博人先生

野原博人先生の実践（「ハンドボールの特性を生かした授業づくり－データ分析から作戦・戦術を立てる活動を通じて－」）では、作戦・戦術を立て、その作戦・戦術にあった練習法を考え、練習をし、ゲームに生かすこと、および友達と協力してハンドボールを楽しむことをねらいとした。方法として、チームごとに練習し、作戦・戦術を確認してゲームを行った。その際、ゲームのデータを分析し、作戦・戦術に役立てるようした。その結果、自チーム、相手チームの特徴をとらえ、容易に作戦・戦術を立て、ゲームを行なえたとしている。課題として、作戦を立てる過程における指導のあり方、データの取り方や系統性を意識したカリキュラムづくりをあげている。

富山県富山市立堀川小学校（3年生）
谷本和信先生

谷本和信先生の実践（「ハンドボール」）では、用具やルール、運動の仕方、チームの仲間に慣れ、自分のよさと仲間のよさを見つけ、生かすことをねらいとした。方法として、ためしのゲームで慣れ、リーグ戦を行った。

愛知県名古屋市立杉村小学校（4年生）
吉田明伯先生

吉田明伯先生の実践（「ボールゲーム」）では、自ら進んで仲間とゲームを楽しみ、自分たちにあった練習・ルール・作戦を工夫して、得点につなげられるようになることをねらいとした。方法として、ヒントカードをもとに、個人とチームの技能を高める練習をし、ゲームを行った。その結果、ヒントカードを用いることによって、自分たちにあった練習方法を選択することができ、評価においても振り返りカードによって仲間と協力することを意識させることができたとしている。また、話し合いの時間を設けることによって児童の思いが生かされるゲームになったという。課題として、勝敗を意識しすぎたことやライトドッチボールを使用したが、ボールの硬さへの恐怖心を持つ児童も見られたことをあげている。

愛知県名古屋市立南陽小学校（5年生）
吉田貴之先生

吉田貴之先生の実践では、力いっぱい投げることの楽しさや爽快感を味わい、特性を生かして運動に取り組むおもしろさ

や工夫した作戦が成功したときの喜びを味わう事をねらいとした。方法として、基礎ゲーム、コーンたおしゲーム、ハンドボールに近い形のゲームを段階的に行った。その結果、楽しさや爽快感を感じ、作戦を工夫していこうとする態度が見られたとしている。コーンたおしゲームやハンドボールを行っていく上で、子供の実態にあわせたコートの工夫やルールの設定が大切であると報告している。

大阪府堺市立八田荘小学校（6年生）
南浴利和先生

南浴利和先生の実践（「ボール運動・ハンドボール」）では、意欲・関心を持ち、安全に留意しながら積極的に取り組み、状況に応じて的確な技術ができるようになること、また簡単な攻めの作戦を工夫することができるようになることをねらいとした。方法として、ハンドボールのイメージ作り、シュート中心とした内容、「スペース」と「速さ」を意識させた作戦作りを行った。その結果、やっていく中で意欲的に取り組め、少しずつキーパーをはずすシュートがうてるようになってきたが、なかなかそのようなシュートは難しいと報告している。集団技能については速攻の形や役割ができ、ディフェンスは3－2－1型のような形になったという。課題として、難しいシュートをどのように工夫するかということをあげている。

岡山県岡山市立大野小学校（2年生および6年生）
信原悦治先生

信原悦治先生の実践（「ボール運動への導入教材の開発ー空間認識能力の育成ー」）は、低学年では「空間認識能力の育成」高学年では「歩数制限が加わることで消滅しかけた動きの活性化」をねらいとした。方法として、低学年ではシュートボール、高学年ではタッチハンドボールを行った。その結果、低学年ではスペースを認識したプレー、遠投の伸びが顕著であったとしている。高学年では、ボールの持っていない動きによってゲームが活性化したことで、スペースの認識とボールコントロールがあれば女子も積極的に参加できることを報告している。キーパーの有無にかかわらず、シュートの精度、成功率はあまり高くない。課題として、ボール遊びの必要性をあげている。

香川香川町立大野小学校（6年生）
伊賀和代先生

伊賀和代先生の実践では、ソフトタイプのボール・簡易ゴールを用いて、安全に楽しくゲームができたことを報告している。子供たちの感想から、ハンドボールは楽しいと感じている。

高知県高知市立横浜新町小学校（3年生および5年生）
山崎功一先生

山崎功一先生の実践（「ハンドボール型ゲーム」／「ハンドボール」）では、協力して練習やゲームを行い、楽しくなるように作戦やルールを工夫し、基本的な技能を身につけることができるようになることをねらいとした。その結果、愛好的な態度を養え、作戦を媒体として学び方やかかわり方を育てることができたとしている。また課題として、学年進行にともなう授業づくりの考え方、および外部講師の活用の仕方をあげている。

長崎県佐世保市立白南風小学校（6年生）
重村誠一郎先生

重村誠一郎先生の実践（「ハンドボール」）では、自主的・自発的にルールを工夫したり、簡単な作戦を立てたりして、ハンドボールを楽しむことができることをねらいとした。方法として、パスを重視したゲーム中心に学習を行った。

熊本県合志町立南ヶ丘小学校（5年生）
有内弘先生

有内弘先生の実践（「ルールかんたん！　とにかく楽しいハンドボールの授業ー「わかる」「できる」を通して、動き方を身につける指導過程ー」）では、進んで声を出して活動し、動きのコツ・基本スキルを身につけること、および学習の仕方がわかり、みんなが楽しくゲームができるようになることをねらいとした。方法として、スキルアップ運動、課題ゲーム、そしてゲームを行った。

熊本県大津町立大津東小学校（5年生）
冨永泰寛先生

冨永泰寛先生の実践（「バスケットボール型ゲーム・ハンドボール」）では、励まし認め合いながら、基礎技能を身につけ、相手の特徴を見つけ、自分のチームに生かしながら楽しくゲームを行うことができることをねらいとした。方法として、個人の基礎感覚づくり、基礎技能づくり、チームの基本的な動きづくり、シュートゲーム、ミニゲーム、ゲーム、そして交流試合を行った。また評価の具体的項目を設けた。

宮崎県延岡市立南方小学校（5年生）
平山肥見先生

平山肥見先生の実践（「若さでシュート、ボール運動・ハンドボール」）では、特性に触れ、身につけた技能を生かし、決まりやルールを守り、協力してゲームを楽しむことができ、自分たちにあった簡単な作戦を立て、工夫することができるようになることをねらいとした。方法として、ドリルゲーム、タスクゲーム、フリーゲーム、そしてリーグ戦を行った。

●

●

東京学芸大学教育学部附属世田谷小学校の内田雄三先生の3年生を対象とした実践（「小学校におけるハンドボールの教材価値と授業づくりの一方策」）、秋田大学教育文化学部附属小学校の4年生を対象とした木谷光男先生の実践（授業提案「ハンドボールを楽しもう !!　パスをつないでゴールへ」）、岩手県田野畑村立島越小学校の4・5年生（合同）を対象とした山本繁先生（中島和孝先生担当）の実践（「活発なボールゲームの条件ーハンドボールと他ボールゲームの比較を通してー」）、そして中間報告書もいただいた岡山市の信原悦治先生の実践は、平成15年度第6回ハンドボール研究集会（秋田市）で報告され、それらの詳細は、ハンドボール研究第6号（平成16年7月発刊）に掲載されているので、参考にしていただければ幸いです。

ドッジと連携強化を

企画・広報委員
早川　文司

Free Throw（フリースロー）

　まもなく開幕するアテネオリンピックの日本選手団は女子が６割というまさに「女性上位」の構成となった。理由はいろいろあろうが、日本スポーツ界においては画期的な出来事であることは間違いあるまい。世界の強豪とどんな戦いを演じ、ドラマを生み出してくれるか楽しみである。

　それはさておき、選手団をながめていて、とてもショッキングはことに出くわした。アテネで行われる競技種目は28だが、日本はそのうち26競技に選手を送っている。残りの2競技は？　なんとハンドボール（残りの1競技は近代五種）なのである。これは「残念」「悔しい」ではすまされないほど「残酷物語」と言っていいだろう。こうした不名誉を挽回するためにも、ぜひ北京五輪へ向けての強化、出場権獲得へまい進するしかあるまい。しっかりと肝に銘じるべき問題だろう。

　さて先日、東京体育館で「２００４学生ドッジボールフェスタ」が開かれた。日本ドッジボール協会が主催したものだが、日本ハンドボール協会が後援となっている。

　ハンドボールとドッジボールとの関り合いはかなり以前からあるのはご承知の通り。日本リーグプレーオフや全日本総合選手権で交流を深めてきた。日本ドッジボール協会会長である森喜朗・前首相も観戦に訪れたいきさつもある。また、７月に広島で行われた女子アジア選手権の際も、試合前にドッジボール教室や親善試合を組み込んで交流を図り、多くの子供たちが参加した。

　ドッジボールは普及・振興の面で全国的に難しい問題を抱えている。実際にプレーするのは大半が中学生の年代まで。高校生以上での競技者は少ないのが現状だ。そうした環境から指導者不足も深刻そうだ。

　そこで同じ「投げる」スポーツとして共通点のあるハンドボールとタッグを組んで普及・振興を図ることを進めようとの動きがある。ドッジボールを経験することで、遠投力がつくなどから、そうした利点を生かし高校生からハンドボールへの道を開こうというもの。

　中学生以下の競技者が少ないハンドボールと中学生以下での競技者が多いドッジボール。この互いのマイナス面を補い、普及・振興を図ろうというプランは結構面白そうだ。連携強化でお互いの競技発展へつながればこれほどの「恵み」はあるまい。

集中連載⑦ スペイン研修報告

日本ハンドボールリーグ機構 GM
田中　茂

スペインハンドボール強化システム

今月はスペインナショナルチームならびに選手強化育成システムの紹介をしたいと思います。

みなさんもご存知のようにスペインハンドボールは世界的にも強く、オリンピック、世界選手権と常に上位を占めています。しかし、近年のような世界での上位成績を収めるにいたるまでには長い間の低迷が続いたことにより、協会として抜本的な改革が打ち出されたのがちょうど20年前の1984年ロサンゼルスオリンピック終了後でした。

このロサンゼルスオリンピックでの8位という結果以前に、出場12チーム中8位以下はアメリカ、日本、韓国、アルジェリアとヨーロッパ以外の国でありヨーロッパ代表のなかで最低の8位の成績がスペインハンドボール協会に大きな問題として取り上げられました。

協会が打ち出した対策案として、

1、チームスタッフの専任化（監督、コーチ、マネージャー等）

2、強化方針の一本化（NTS）

3、試合数の確保

以上の3点が重要課題であるとし強化を進めていった。

1) チームスタッフの専任化（監督、コーチ、マネージャー等）

チームスタッフはトップのナショナルチームスタッフをはじめ、各カテゴリーのスタッフまでも全て専任で協会とプロ契約を行う。

契約したスタッフは自国のハンドボール強化のため、最大限の努力をしていかなければならない。

そのために、普段の活動は各チーム（クラブ）を回り、指導、育成、選手の発掘、指導者に対しての講習会などが仕事となっている。

2) 強化方針の一本化（NTS）

若手育成に力を入れ、それぞれの地域（スペイン全土を4つの地域に分け）の4地域選抜チームの強化を徹底的に行う。また各カテゴリー（U-16、U-19）の選手選考基準の第一番目に高身長が入っている。プレーの習熟度や、ただ単に実力がある選手を選考するのではなく、あくまでも育て上げトップチームになったときに活躍できる選手を選考する。

また、徹底的に地域で強化することを基本にし、毎年1回6月に4地域の選抜チームが集合して試合形式の合宿を行い、最終的に1チームを作り上げていく。

各地域のスタッフはナショナルチームスタッフと連絡を取り合い進捗状況、情報などの提供を行う。

3) 試合数の確保

国際試合を若いときから多くを経験させることが選手育成には欠かせないと判断し、練習よりも多くの時間を試合にあてている。

また、ナショナルのトップチームも近隣の国での国際試合を多く経験し実績をつんでいる。

上記の3つの柱は専任指導者の必要性、選手の育成（発掘）、試合経験を連動させていくことを各カテゴリーで実践していった結果が成果として現れてきている。

私なりに注目したのが、実際に同様のケースで女子が世界で注目される様にまで成績を上げてきたこと、スペイン女子は過去のオリンピック、世界選手権と主だった成績を収めたことがなく低迷をしていましたが、近年男子同様な強化プランを実行する事により飛躍的な成績を収める結果となっている。

女子も男子同様に身長を選考基準にもうけ、日本の各カテゴリーの選手選考みたいに実力がある選手を選考してチームをつくるのではなく、トップチームで活躍できる選手を育てていく方法をとったことによる成果が現れてきている。

また、男子と違いスペイン女性はそれほど他の国に比べ背が高い選手が少なく、逆に体格のいい男子かおまけの選手を起用したことも新しい成果になっているのではと感じる。

上記に上げた強化は現在も基本部分になっているし、スペインが強くなったことにより国内リーグのレベルアップがはかられドイツのブンデスリーグをしのぐ勢いであるし、国内リーグのレベルアップが国の代表チームのレベルアップに直結しているのは間違いありません。

日本としても一貫したハンドボール指導をもう一度しっかりと考えていかなければならないし、現在進んでいますNTSの充実をはかり、日本が勝つための独自の方法論を見つけていかなければならないと感じています。

スペイン代表成績（男子）

オリンピック

・１９７２年	ミュンヘン	１５位	出場国１６チーム………………	日本１１位
・１９７６年	モントリオール	不出場	出場国１１チーム………………	日本　９位
・１９８０年	モスクワ	５位	出場国１２チーム………………	日本不出場
・１９８４年	ロサンゼルス	８位	出場国１２チーム………………	日本１０位
・１９８８年	ソウル	９位	出場国１２チーム………………	日本１１位
・１９９２年	バルセロナ	５位	出場国１２チーム………………	日本不出場
・１９９６年	アトランタ	３位	出場国１２チーム………………	日本不出場
・２０００年	シドニー	３位	出場国１２チーム………………	日本不出場
・２００４年	アテネ	？位	出場国１２チーム………………	日本不出場

世界選手権

・２００１年	フランス	５位	出場国２４チーム………………	日本不出場
・２００３年	ポルトガル	４位	出場国２４チーム………………	日本不出場

スペイン代表成績（女子）

オリンピック

・１９９２年	バルセロナ	７位	出場国　８チーム………………	日本不出場
・２００４年	アテネ	？位	出場国１０チーム………………	日本不出場

世界選手権

・２００１年	イタリア	１０位	出場国２４チーム………………	日本２０位
・２００３年	クロアチア	５位	出場国２４チーム………………	日本１６位

◆ハンドボール・アラカルト◆　切手に見るハンドボール（8）

8月はオリンピックの月、今月号も先月号に引き続きオリンピック切手を紹介致します。今回は 1988 年のソウル大会です。モスクワ、ロサンゼルスと２大会が東西冷戦の影響を受け片肺大会となってしまいました。パルパル（88）オリンピック大会は久しぶりに開かれた世界規模のオリンピックとなりました。

男子は 12 カ国、女子は８カ国が参加しました。優勝は男子はソ連が地元韓国を大差（32-25）で破り優勝。破れたとはいえ地元韓国が準優勝。３位はユーゴスラビアでした。女子は予選リーグを１位で通過、決勝リーグも全勝で地元韓国が初優勝。２位はノルウェー、３位はソ連であった。

オリンピックチームの団長北川勇喜氏、監督野田清氏、コーチ津川昭氏、佐藤要二氏、塙敏氏、選手は GK 井藤英忠氏、矢内浩氏（現男子ナショナルコーチ、大崎電気工業㈱)、FP 西山清氏、玉村健次氏（現男子ナショナルコーチ・湧永製薬㈱)、田口隆氏（前ナショナルチーム監督）など。

ソウルオリンピックのハンドボール切手も多数発行されています。地元韓国（写真①）では寄付金付きが 1986 年に発行、その他ギニア（切手②)、アイボリーコースト（写真③)、ガンビア（切手④）などがあります。



切手①



切手②



切手③


切手④

NTS2004報告

NTSコーディネーター　栗山　雅倫

今年度のNTSも本格的にスタートを切りました。今後とも皆様方のご理解とご指導をお願い申し上げます。
さて、昨年来課題となっていた、NTSへの推薦基準の整備を、強化委員会の指導の下、以下の通り設定させて頂きました。具体的な根拠の作成には、医科学委員であり、NTS運営委員の、田中守先生（福岡大学）にご尽力いただきました。ご参照下さい。
なお、各ブロックには6月月初めにお送りいたしております内容です。

【センタートレーニング】

		参考（センター推薦基準）			
		高校男子	高校女子	中学男子	中学女子
形態	身長	185cm	170cm	180cm	167cm
	体重				
	利き手				
	ポジション				
運動能力	30m走	4.02sec	4.55sec	4.22sec	4.68sec
	立ち5段とび	13.64m	11.19m	12.57m	10.72m
	ハンドボール長座投げ	26.40m	19.22m	25.60m	15.82m
	背筋力	191kg	136kg	171kg	109kg
	平均握力	58kg	40kg	53kg	37kg

① センタートレーニング形態的特長基準を上回る選手
② センタートレーニング運動能力的特長基準を2項目以上、上回る選手
③ 技術戦術的特長を有する選手
④ その他の理由で推薦に値する選手（左利き、リーダーシップ、①②はクリアしないがクリアに近い者…など）
⑤ 日本ハンドボール協会、強化部会から推薦を受けている選手

【ブロックトレーニング】

① ハンドボール協会・強化部会による推薦選手（ブロック参加を経て、センタートレーニング参加資格を有する）
　（ア）強化部会からの推薦選手は、前もって各ブロックに通達があります。
② センタートレーニング推薦基準をクリアする選手（ブロック参加を経て、センタートレーニング参加資格を有する）
③ センタートレーニング推薦基準はクリアしないが、ブロックに参加の上、評価を受ける必要のあると思われる選手

【基準の考え方】

強化委員会医科学専門委員
NTS運営委員（医科学担当）
田中　守

参考にした資料は、NTS体力データとイオン・クンスト氏が示した「トップレベル選手選抜のための体力モデル」(1990)です。

＜妥当性＞

NTSブロックトレーニングに推薦される選手は、県内のトップ選手に位置し、現状での選手の発掘に適した方法と考えます。従って、その中で形態的に優れる選手の基準も、運動能力に優れる選手の基準も、NTSブロックトレーニングに参加した全選手の統計資料から特に秀でている（7%前後:10名程度）選手を選考することは妥当といえます。

第5回 関東ジュニア韓国遠征

第5回関東高校ジュニア韓国遠征（男・女）が、2003年12月26日〜30日の日程で、今年も実施されました

男子

男子は3日間（26日〜29日)、昨年と同様富川（プッチョン）工業高校（監督鄭成瀕）で行われました。富川高校も3年生はすでに大学で練習しているとのことで、2年生、1年生、中学3年生の総勢12名と少人数でしたが、選ばれてきたメンバーだけに、1人1人の能力はすぐれていました。

27日午前中は合同でフットワーク、ボールコントロール、フェイントなどを練習、午後はチーム練習後30分ゲームを3回行いました。午後のゲームではスピード、シュート力、デフェンス力等韓国選手は関東選抜を上回っており、大変勉強になりました。しかし、これからの練習次第ではどうにかなるのではと思うところも多くあり収穫のある経験が出来ました。

28日は午前中ゲーム、午後は韓国大統領カップが行われているオリンピック記念体育館に試合を見学に行きました。韓国でも1・2位を争うといわれるOBビールと軍隊の試合でした。さすがにスピード、パワー、テクニック等見るべき事が数多くありました。

29日は午前、午後ともゲームを行い、負けはしましたが良い試合が出来ました。韓国の監督からも、良い選手が数多くいて非常に楽しみであると言われ、成果のある遠征であったと思います。

女子

女子は27日と29日は、貞信(チョンシン)女子高校(監督李文植)、28日は、輝慶（ヒギョン）女子高校（監督朴在秀）で行われました。

27日午前は、ランニング、タイヤ引きダッシュ、ジャンプトレーニング、フットワーク、1分間走等の後、ボールを使ってのドリブルダッシュ、ワンパス速攻、ランパス、3人コンビシュート等の基礎練習を行いました。午後は基礎練習後30分ゲームを2回行いました。1試合目はGKの頑張り、相手ミスからの速攻等で勝ち、2試合目はセンター、右45の左利きのプレイヤーを止めることができず敗れました。

28日、輝慶（ヒギョン）女子高校にてフットワーク、バストレーニング等を合同で行い、ゲームも30分を3回して1勝2敗と健闘しました。

29日は、再び貞信に移り午前はフットワーク、ボールを使用したトレーニング、2人コンビシュート、フェイント等を行いました。午後は基礎練習後、30分ゲームを2回行いましたが、勝つことはできませんでした。

＊　＊　＊

4泊5日という短い遠征でしたが、世界のトップレベルにある韓国の技術や精神を学ぶことができ、非常に有意義な遠征であったと思います。今後、この遠征に参加した選手達が韓国で学んだ技術等を仲間に伝達し、関東のレベルアップになることと確信しています。

第5回関東高校ジュニア韓国遠征メンバー

[役員]
団長・斎藤光男（富岡実業高）
総監督・笠原利宏（昭和学院高）
男子監督・阿部直人（法政二高）
コーチ・大東秀昭（中大附高）・吉井雅一（麻生高）
女子監督・宮崎昭（埼玉栄高）
コーチ・河先修（栃木商業高）・石川浩和（佼成学園女子高）

[男子選手]
石井曹嗣・佐藤潤一・田島亮祐（富岡高）
佐藤駿・岩井大樹（富岡実業高）
永瀬都実・武井達也・広瀬大輔（駿台甲府高)、古屋幸之助（日川高）
朝川晃一・中谷昇・二平貴士・永島哲也（法政二高）
二見健也（横浜創学館高)、藤田繁（湘南工科大付高）
小川満成（東海大菅生高)、岸川弘樹（國學院大學栃木高）
金田年矢（作新学院高）

[女子選手]
田村玲奈（高崎健康福祉大高崎高)、小菅由貴（吉井高）
栗原由佳（桐生西高）
表寺由貴・佐藤恵・鈴木紫乃・石塚由希・黒須未沙（栃木商業高）
田口佳代子（埼玉栄高)、小松亜矢子（日川高）
桝田敬子・斎藤祐佳（横浜創英高）
間木平美穂・松本知佳・佐藤真奈美・中山朋子（佼成学園女子高）
豊島理美・佐波綾香・里見香代子（昭和学院高）
花澤美緩（千葉商業高）



男子　　写真提供：スポーツイベント社

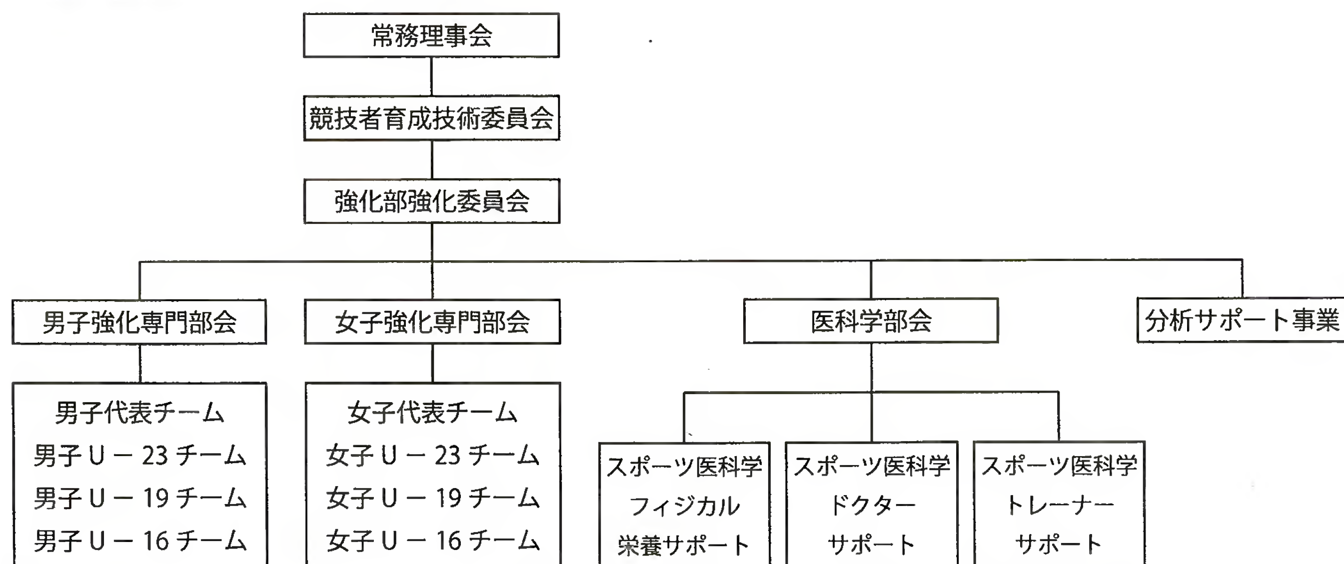


女子　　写真提供：スポーツイベント社

強化部だより

強化に関する委員会・部会の組織及び役員
並びに各ナショナルチーム監督・コーチ・選手（候補）名簿

組織図



委員会・部会の役員

委員会・部会	委員長・部長	副委員長・副部長	委員・部員
強化部 強化委員会	緒方　嗣雄	水上　一	福地賢介、松喜美夫、石井勝、近森克彦 樫塚正一、蒲生晴明、栗山雅倫
男子強化 専門部会	松　喜美夫	矢内　浩	松井幸嗣、玉村健次、佐々木英明 田村修治、大房重則、冨本栄次
女子強化 専門部会	水上　一	樫塚　正一	西窪勝広、池田修、堀田敬章、東江正作 荷川取義浩、河先修、石塚廣一
医科学部会	坂本　静男		
分析 サポート部会	平岡　秀雄	水上　一、笹倉清則、斎藤慎太郎、田中俊行 松井幸嗣、西窪勝広、石塚廣一	

代表選手名簿（候補）

平成16年6月現在

男子

役　職	氏　名	所　属　先
監　督	松井　幸嗣	日本体育大学
コーチ	玉村　健次	湧永製薬（株）
コーチ	矢内　　浩	大崎電気工業（株）
コーチ	冨本　栄次	大同特殊鋼（株）

	氏　名	所属先名	出身大学	出身高校	出身地
GK	坪根　敏宏	湧永製薬	福岡大	久留米工附	福岡県
	高木　　尚	大同特殊鋼	日体大	北陸	福井県
	吉田　耕平	ホンダ熊本	大体大	北陽	大阪府
	志水　孝行	大体大	―	瓊捕	長崎県
CP	松林　克明	大同特殊鋼	日体大	桃山学院	大阪府
	野村　広明	トヨタ車体	国士舘大	大分電波	大分県
	宮﨑　大輔	大崎電気	日体大	大分国際	大分県
	下川　真良	湧永製薬	大体大	北陽	京都府
	永島　英明	大崎電気	大体大	此花学院	大阪府
	中川　善雄	大崎電気	中央大	九州学院	熊本県
	羽賀　太一	ホンダ	中京大	京都両洋	京都府
	古家　雅之	湧永製薬	筑波大	桃山学院	大阪府
	東　　慶一	湧永製薬	大体大	下松工高校	山口県
	谷口　　了	ホンダ	日体大	北陸	和歌山県
	東　　俊介	大崎電気	国際武道大	金沢市工	石川県
	田中　　将		日体大	伊奈	茨城県
	阿部　展行	ホンダ	法政大	横浜商工	神奈川県
	太田　芳文	大崎電気	日体大	伊奈	茨城県
	内田　雄士	日本大学	―	熊本市立商	熊本県
	前田　誠一	大崎電気	日体大	浦和学院	北海道
	豊田　賢治	大崎電気	国士舘大	浦和学院	埼玉県
	中谷　哲也	ホンダ	中部大	高岡向陵	富山県
	福田　大樹	湧永製薬	東海大	湘南工大附	神奈川県
	長谷川　聖	トヨタ車体	中部大	四日市	三重県
	東長濱　秀作	日体大	―	興南	沖縄県
	岩永　生	筑波大	―	瓊捕	長崎県
	渡久川　兼太	日体大	―	那覇西	沖縄県

女子

役　職	氏　名	所　属　先
団　長	水上　　一	㈶日本ハンドボール協会
監　督	西窪　勝広	㈶日本ハンドボール協会
コーチ	東江　正作	㈶日本ハンドボール協会
ドクター	坂口　満	熊本整形外科病院
トレーナー	皆川　直哉	オレンジカウンティー

	氏　名	所　属　先　名	出身大学	出身高校	出身地
GK	飛田季実子	ソニーセミコンダクタ九州	―	福島女高	大阪府
	浅井友可里	広島メイプルレッズ	―	四天王寺	大阪府
	藤間かおり	オムロン	―	鶴崎高校	大分県
CP	田中美音子	ソニーセミコンダクタ九州	―	四天王寺	大阪府
	高栖　由香	ソニーセミコンダクタ九州	国士舘大	麻生高校	茨城県
	長野かづさ	ソニーセミコンダクタ九州	―	櫻花学園高	岩手県
	青戸あかね	広島メイプルレッズ	東女体大	山陽女高	広島県
	大前　典子	広島メイプルレッズ	―	四天王寺	大阪府
	中村　尚美	北国銀行	武庫川大	福井商高	福井県
	小野澤香理	北國銀行	国士舘大	文大杉並	東京都
	上町　史織	北國銀行	国士舘大	盛岡第二	岩手県
	大石　真代	オムロン	武庫川大	暁高校	愛知県
	佐久川ひとみ	オムロン	―	浦添高	沖縄県
	坂元　智子	オムロン	―	夙川学院	兵庫県
	水野　恵子	オムロン	―	熊本国府高	熊本県
	安心院祐子	オムロン	―	鶴崎高校	大分県
	東濱　裕子	オムロン	―	陽明高	沖縄県
	吉田　祥子	オムロン	東女体大	宣真高校	北海道
	早船　愛子	日本ハンドボール協会	筑波大	氷見高	富山県
	谷口　尚代	筑波大学	―	福井商業	福井県
	樋口　真央	筑波大学	―	櫻花学園高	愛知県
	藤井　紫緒	東京女子体大	―	宣真高校	大阪府
	伊藤亜衣美	武庫川女子大	―	暁高校	
	植垣　暁恵	大阪教育大学	―	宣真高校	

パッシブプレー 評価・判断基準・処置



㈶日本ハンドボール協会審判部競技規則委員会委員長
岸本 光夫（大津市民病院）／翻訳

今号では、ワールド・ハンドボール・マガジン（WHM：国際ハンドボール連盟機関誌：年 4 回発行）の 2004 年 4 号の別冊に掲載されたプラウゼ氏のパッシブプレーに関する記事を翻訳掲載いたします。翻訳に当たりましては審判部競技規則委員長の岸本氏に協力いただきました。なお、本稿はプラウゼ氏の個人見解であり、日本ハンドボール協会の見解と異なる場合のあることをご了承ください。（機関誌委員会記す）

「パッシブプレー」の判定に際して予告合図を導入したが、これは主観的な判定を減らすことを目的としていた。さらなる目的は活動的でない状況を減らし、効果的な競技時間を増やす、より魅力的でスピーディなプレーを展開させることにある。

「パッシブプレー」の判定に際して、主な問題点はどこにあるのか？

コーチの観点から

- レフェリーは、組立て局面を完遂させる機会をチームに与えなければならない。
- 従来どおり、いわゆる攻守の専門プレーヤーの交代を認めるべきである。
- 観衆からのプレッシャー：ほとんどの判定は、ゲストチームに対するものである。
- ゲームの初めと終わりで、異なった判定がなされる。
- 積極的な防御システムと消極的な防御システムで、異なった解釈がなされる。

レフェリーの観点から

以下のことが本当にそうなのかどうかを見極め、判定すること

- 真に攻撃するために、数名で、あるいはチーム戦術として準備している。
- 競技時間を稼ぐためにボールを所持しているのか、あるいは防御活動をしている相手を目の前にして、どうすることも出来なくなってボールを所持しているのか。

「パッシブ」という言葉が真に意味するものは何か？

- 何もしない　・展望や目的がない
- 「プレー」していない　・つまらない

上の言葉はハンドボールの基本理念に則っているだろうか？　なぜ則っていないのか？

- ハンドボールの基本理念は得点を挙げることである。

レフェリーはどのような職務を担わなければならないのか？

パッシブプレーを察知し、厳格に対処すること。

パッシブプレーの状況を察知したとき、レフェリーはどのように振る舞うか？

コミュニケーション：一方のレフェリーがパッシブプレーを察知して腕を上げた場合、他方のレフェリーはこれを見て同じジェスチャーをする。すべてのプレーヤー（コーチ）はこの状況を考慮に入れるだろう。レフェリーがパッシブプレーであると判断したのだから、チームはその予告合図を見てから対応できる見込みがなければならない。

重要：予告合図の後、攻撃側は企図した攻撃を完遂できる可能性を有していなければならない。

観察の基準は

- プレーのスピードが明らかに上がっているか？
- 先導するような攻撃展開（1 対 1 、素早い準備パス、短い組立て）

競技規則ではパッシブプレーについてどのように記載されているか？

7：10　攻撃しよう、あるいはシュートしようという意図を示さないで、チームがボールを所持し続けることは許されない。これをパッシブプレー（競技規則解釈 4 を参照）とみなし、相手チームにフリースローを与える（13：1a)。

競技を中断したときにボールがあった場所からフリースローを行う。

7：11　レフェリーは、パッシブプレーの兆候を察知したときに、予告合図（ジェスチャー 18）を出す。これにより、ボールを所持しているチームはその所持を失わないように、攻撃方法を改める機会を得る。予告合図を出した後も、ボールを所持しているチームが攻撃方法を改めなかったとき、あるいはシュートをしなかったときは、相手チームにフリースローを与える（競技規則解釈 4 を参照)。

プレーヤーが明らかな得点チャンスを意図的に放棄するなど、特定の状況において、レフェリーは前もって予告合図を出していなくても、相手チームにフリースローを与えることができる。

レフェリーはどのような判断基準を用いなければならないか

・得点、順位
・競技時間、延長戦
・両チームの得点差は重要か？

ボールを所持しているチームが行っているプレーの状況は何か？

・ボールを所持しているチームはコート上のプレーヤー数を減らされている状態か？
・攻撃を先導する気配のない準備パス
・フリースローの判定をもらいにいくようなプレー状況
・フリースローの判定の際、ボールをコートに放置したままにする、あるいはわざと間違えてスローを実施する。

パッシブプレー：プレー構築

攻撃におけるすべての局面でパッシブプレーは起こりえるし、ゲームのどの時間帯においてもパッシブプレーの芽は出てくる可能性がある。

・ゆっくりしたプレーヤー交代による、または攻撃への緩慢な移行による予告合図
・組立て局面におけるゆっくりとしたプレーヤー交代による予告合図
・組立て局面において準備パスに時間をかけすぎた場合の予告合図

予告合図を示す場合の例

・チームがコート上のプレーヤー数を減らされているとき：違反されるのを「待っている」だけ、または「横方向に」プレーしたり走ったりしているだけの場合 → 予告合図
・チーム戦術をすでに展開し始めた後でのプレーヤー交代：ゆっくりと前に進んだ後、プレーヤーはみな自分の攻撃位置についたが、さらにそれから非常にゆっくりとプレーヤーが交代する → 予告合図
・「広く展開した速攻」が不成功に終わった後、プレーヤーが速やかに交代した場合は違反としてはならない → 予告合図は不要！
・スロー（ゴールキーパースロー、スローオフ、フリースロー、スローイン）を与えられた際、チームは明らかにスローを実施したくないという態度をしている場合には、<u>タイムアウトをとってはならない</u>。当該のチームまたはプレーヤーに「それぞれのスローを速やかに実施しなさい」と伝えるのである。
①当該のプレーヤーがレフェリーの指示にきちんと従おうとしている場合、レフェリーはこれ以上何も対処する必要がない。
②明らかに無視している場合、次のように対処する：スローオフの直後にパッシブプレーの予告合図を出す、すると当該チームは時間稼ぎの小細工が見抜かれていたことに気づく。
例・わざと間違えてスローを実施する（誤った地点）。
・実施の遅延：ボールをコートに放置したままにして、誰もフリースローの実施位置につこうとしない。
・スローオフに際して、ゴールからコート中央へ向かって、極めてゆっくりとボールを運ぶ。
注：このような行為によって、ゲームの得点について相手チームが不利益を被るはずであり、さらに明らかに時間を浪費している場合には、もちろんレフェリーはタイムアウトをとることができる。
③その後もさらなる遅延行為があった場合には、タイムアウトをとり、「スポーツマンシップに反する行為」として当該のプレーヤーに段階罰を適用しなければならない。

競技規則・審判委員会では、数カ国から出されたいくつかの要望に応じて、次のように決定した。

競技規則解釈４「パッシブプレー」

「4. 予告合図の後」における記述を次のように変更した。この変更点については、まずマケドニアでの女子ジュニア世界選手権大会で、次いでブラジルでの男子ジュニア世界選手権大会で施行されている。
（競技規則書における「予告合図の方法」の）第３段落の記述を、次のように変更する：

１度の攻撃（これはボールを所持したときから始まる）において、１回しか予告合図を出してはならない。シュート（7mスローや直接ゴールを狙ったフリースローも含める）をして攻撃が終わったが、ボールはゴールキーパーやゴールポスト・クロスバーに当たって跳ね返り、そしてこれまで攻撃していたチームがそのボールを再び所持した場合、組立て局面から新たな攻撃が始まる。予告合図が出されている状況で、防御側のプレーヤーやチーム役員が競技規則違反やスポーツマンシップに反する行為をし、競技規則第16条により段階罰を適用された場合も、同様に新たな攻撃が始まることになる。

予告合図を出した後のパッシブプレーの判定

判定のための基準

・５秒以上経っても、組立て局面が続いている。
・攻撃スピードが明らかに上がっていない。
・組織的な攻撃活動がない。
・積極的な防御活動により、攻撃スピードが上がらない。

指示：原則として、パッシブプレーの判定と吹笛は、横方向にパスされているときやボールが後方に向かっているときに限らなければならない。決して、前方に移動しているときや、シュートを打つときであってはならない。

一方のレフェリーがパッシブプレーを察知したとき、どのような任務があるのか？

・アイコンタクトをとって、ペアレフェリーと一緒に判定する。
・ジェスチャー18は同時に示した方がよい。

2004　全国大会審判員

（04, 6, 27現在）

大会名	開催地	期　日	審　判　員
全国高校総体	山口県	8/1 ～7	◎細沢　覚　○大橋幹正　○菅野　肇　○勝本章裕　○工藤泰夫　○藤本幹男　○赤地典高　○原井　進 亀山　耕司・水谷　省一（北海道）　中舘　豊・多田　和生（岩　手）　仲田　稔・植村　彰（千　葉） 泉水　孝浩・田中　啓輔（千　葉）　安田　寛・北嶋　浩（東　京）　阿部羅大造・浜野　大助（石　川） 楓　健児・渡辺　貞彦（愛　知）　伊藤　保仁・尾崎　浩祥（大　阪）　秦　隆二・秦　伊織（奈　良） 岡辺　清和・神野　利雄（兵　庫）　高　俊文・奥川　和永（広　島）　池渕　智一・檜崎　潔（広　島） 久保　博・高野　修（広　島）　稲葉　昌治・森本　泰夫（鳥　取）　浜角　智之・山本　淳（島　根） 田原　和雄・飯島　浩太（山　口）　加藤　晃・角　直樹（山　口）　白川　裕隆・梅本　司（山　口） 多田　宣行・杉山　孝広（香　川）　山本　耕一・壺内　博章（愛　媛）　浦川　寿生・石崎　章弘（長　崎） 村田　武・山下　智紀（熊　本）
全国中学校	千葉県	8/21 ～24	◎齊藤仁宏 村瀬　清史・石垣　正樹（北海道）　荻原　亨・小松　大（秋　田）　田川　卓史・二瓶　元嘉（福　島） 江原　秀一・永春　文義（東　京）　佐々木和明・稲生　淳一（千　葉）　仲田　稔・植村　彰（千　葉） 中沢　徹・服部　博幸（長　野）　浅野　幹也・神谷　真次（愛　知）
ジャパンオープン	津山市	女子 8/10 ～13	◎齊藤　實　○東　昌弘　○藤井俊朗　○大熨嘉彦 佐久間良幸・山下　信之（京　都）　矢本　康成・神野　利雄（兵　庫）　三宅　秀明・森脇　雄治（岡　山） 野島　祥之・石原　秀和（岡　山）　浜角　智之・山本　淳（島　根）　倉谷　康彦・川崎　尚（山　口） 武智　誠治・定岡　孝明（愛　媛）　奥山　誠恒・庄屋　亮二（鹿児島）　中地　健三・新里　泰司（沖　縄）
	総社市	男子 8/13 ～17	◎齊藤　實　○東　昌弘 野島　祥之・石原　秀和（岡　山）　藤井　俊朗・大熨　嘉彦（岡　山）　丸川　勝己・山本　篤洋（岡　山） 久保　博・高野　修（広　島）　白川　裕隆・梅本　司（山　口）　髙橋　卓也・清水　修（高　知） 川田　哲也・森實　岳史（愛　媛）　境　吉彦・権藤　洋文（佐　賀）
実業団選手権	高知市	9/8 ～12	◎喜井美雄　○中川利彦 黒木　龍二・黒木　秀吾（東　京）　安田　寛・永春　文義（東　京）　佐路　清隆・佐藤　晃（京　都） 武智　誠治・定岡　孝明（愛　媛）　長谷部次雄・弘田　陸仁（高　知）　多田　宣行・杉山　孝広（香　川）
国民体育大会	三郷市	10/24 ～28	◎齊藤　實　○上久保重次　○中山富夫　○兼田佳博　○山田敬太 笹川　賢俊・加藤　慶仁（北海道）　高山　潤二・木村　篤史（宮　城）　山下　勝俊・四元　俊一（栃　木） 福田　弘・冨田　拓（茨　城）　譲原　昭・栗田　与一（群　馬）　小林　一夫・土屋　雅男（埼　玉） 長瀬　浩・池田　勝（埼　玉）　牧田　実・相坂　賢将（埼　玉）　稲村　正・寿川　智博（埼　玉） 仲田　稔・植村　彰（千　葉）　浜田　浩和・小笠原久郎（東　京）　安田　寛・北嶋　浩（東　京） 本田　義昭・鈴木　和宏（神奈川）　八田　政久・菊島　裕次（山　梨）　山口　弘夫・岩上浩一郎（富　山） 矢本　康成・神野　利雄（兵　庫）　三宅　秀明・森脇　雄治（岡　山）
全日本学生	浦添市	11/	◎佐野和夫　○森山正治　○狩野幸介　○後藤　登 福田　弘・冨田　拓（茨　城）　家永　昌樹・福島　亮一（大　阪）　龍　弘美・貞島　早苗（佐　賀 平島　哲也・久保野弘光（福　岡）　上江洲　登・儀間　稔（沖　縄） 各ブロック学連推薦審判員
全日本総合	大阪市	12/14 ～18	◎齊藤　實　○小山　勉 審査指導委員会にて別途検討
JOCカップ	堺　市	12/25 ～28	◎齊藤仁宏　○小山　勉 大脇　和春・水内　隆夫（新　潟）　藤井　善彦・竹野　誠司（福　井）　大岩　広人・渡辺　紀之（静　岡） 三谷　雅人・近藤　喜夫（三　重）　青木　英樹・根来　英介（愛　知）　杉山　寛政・近藤田都哉（岐　阜） 能波　羊二・井上　清光（滋　賀）　伊藤　保仁・尾崎　浩祥（大　阪）　佐々木昌弘・高原　浩徳（大　阪） 佐路　清孝・佐藤　晃（京　都）　川勝　宏治・川勝　裕義（京　都）　佐川　正巳・矢野　勝弘（奈　良）
全国高校選抜	守谷市	3/24 ～29	◎細沢　覚　○大橋幹正　○細谷安司　○宮沢則夫　○大東秀明　○飯名剛士　○大鐘雅善 俵　英生・石垣　正樹（北海道）　大出　治男・小西　正寿（栃　木）　浜野　徹・高井　洋（青　森） 高橋　善浩・安孫子　功（山　形）　福田　弘・冨田　拓（茨　城）　安達　和雄・長谷川　剛（茨　城） 勅使河原誠・戸塚　昭（群　馬）　小林　一夫・土屋　雅男（埼　玉）　黒木　龍二・黒木　秀吾（東　京） 中舘　豊・多田　和生（岩　手）　浜田　浩和・小笠原久郎（東　京）　油上　智・中村　行志（静　岡） 池渕　智一・名務　宗孝（岐　阜）　大石　克哉・桜打　佳浩（富　山）　佐々木昌弘・高原　浩徳（大　阪） 小川　昌志・天野　誠司（徳　島）　野島　祥之・石原　秀和（岡　山）　冨永　卓公・和田　保典（宮　崎）



平成16年度5月常務理事会

日　時　平成16年5月15日（土）
場　所　日本青年館
出席者　山下副会長、市原副会長、大西専務理事、常務理事7名、監事2名、事務局5名

審議事項

1. 寄附行為・規程

寄附行為の副会長数を2名から3名に変更の件については今回は見送る。

規定集に関しては項目を資料で示し、次回常務理事会までに改訂部分を配布、6月の常務理事会、理事会にて了承を得る。

倫理規定（案）が提出され、次回常務理事会で検討する。

表彰規程改定と内規が示された。

2. 平成15年度決算、平成16年度予算一次補正

資料により平成15年度決算書（案）が示された。

第一次補正予算が示された。

決算報告書、事業予算書等の書式を今後JOCの書式にあわせる。

3. 平成16年度日本協会組織図

大西専務理事より資料が示され、説明が成された。

徳高参事のアメリカ転勤に伴い辞表がだされ受理、蒲生参事〈理事待遇〉を理事に推薦する。

村松前常務理事を総務部表彰担当の参事に推薦する。

4. 平成15年度日本協会表彰

複数名推薦した都道府県もあるが、推薦された21名を承認する。

今後、上部団体での推薦基準を満たすため日本協会内部からの推薦を考慮する。

都道府県協会の表彰制度推進を勧める。

来年度からは、新推薦内規を適用し団体等の推薦が可能となる。

5. 平成17年度叙勲及び褒章候補者推薦について

過去の推薦順位を確認し、大西専務理事一任で推薦を行う。

6. 平成16年度日体協公認スポーツ指導者表彰推薦について

推薦基準を満たすメンバーをリストアップし、次回常務理事会に再提案する。

7. 海外大会派遣役員予定

第8回アジア女子ジュニア選手権には大西専務理事を派遣する。

アテネオリンピックには渡邉会長（IHF）、市原副会長（JOC）、緒方常務理事〈TV解説者〉がそれぞれの役職で参加する。

第12回日中韓ジュニア交流大会は中体連が担当する。

第2回ビーチハンドボール世界選手権大会は、IHF総会が開催される関係も有り検討する。

8. 出張利用交通機関（のぞみ利用）、海外おみやげ他

東海道新幹線利用の場合は「のぞみ」の利用を可能とする。

海外土産に関しては協会グッズを積極的に活用する。在庫に関して事務局で調査を行う。

大きな大会に於いては、3万円を基準として協会名入りの盾等を作成することが出来る。

9. むささびプラクティスTシャツについて

すべての在庫をモルテン倉庫に移し、在庫管理・販売を委託する。

10. オリンピックプロジェクト

常務理事会に先立ち、副会長2名、専務理事、常務理事2名で協議を行った。

北京オリンピック予選に向けて現在の大学4年生を中心に集中強化を行う。

過去の強化に関しての推移、実績検証を行い広島でのオーナー会議（7/23）までにさらに具体的で、詳しい計画を作成する。

財務計画も含み、競技、普及、審判等委員会と連携して実施計画を作成する。

11. 契約選手日当について

他競技等を参考、検討して次回までに再提案を行う。

12．アジア女子選手権（ヒロシマ国際）

4チーム参加、7/21～7/25の日程で開催する。

AHF役員派遣に関しては東西役員が半々になるように今後交渉を行う。

開催権料に関して今後交渉を行う。

日本協会の負担金が派生するため、次回常務理事会までに補正予算を提出する。

審判部で7/24、25にトップレフェリー講習会を開催する。

その他の委員会等の開催を検討して欲しい。

実行委員会を早期に立ち上げる。

報告事項

1. IHF・AHF共催上級役員セミナー

モンゴルで開催され、9カ国が参加し、日本から山下、市原両副会長が参加した。

2. 国際競技連盟役員等一覧

現在の役職一覧が示され、改選時期には専務理事を中心に検討する。

3. 第7回ハンドボール研究集会

上記研究集会を熊本に於いて、8月3・4日に開催する。

4. 女性委員会活動予定

平成16年度に各都道府県内に担当委員を設置する。

女性指導者の現状を把握するためにアンケートを実施する。

5. ドッジボール協会連携について

ドッジボール競技との連携強化のために、学生チームを参加させる。

6. ユースエリート候補者等

ユースエリートに棚原良（興南高校2年)、藤井紫緒（東京女子体育大学2年）を推薦する。

選任コーチ緒方、支援コーチ玉村、堀田が承認された。

代表チーム合宿日程が示された。

7. スポーツ指導者海外研修員候補者

JOC平成16年度スポーツ指導者海外研究員として山田永子（筑波大学大学院修了）が決定した。ノルウェー、オスロ、2年間。

8. JOCナショナルトレーニングセンターについて

ハンドボール専用体育館として2面、タラフレックス、空調、天井10メートル以上、公式試合が出来る等の要望を提出する。

9. スポーツ団体トップリーグ運営助成

上記助成事業として、チームマネージメント・シンポジウム、リーグ、東アジアクラブ選手権チーム派遣、サマーキャンプ、オールスター戦、チャレンジリーグを開催する。

平成16年度、男子は4チームのプレーオフを行う。

10. 第1回東アジアクラブ大会報告

海外試合の経験のない選手にとってはよい経験であった。

同行の早川氏のレポートを機関誌に掲載する。

藤井・大駅ペアが最優秀レフェリーに選ばれた。

11. 日本ハンドボールリーグ講演会

5月16日、リーグ監督会議の席でサッカー女子日本代表監督、上田栄治氏の講演会を開催する。

12. 10万人会

資料により平成15年5月～平成16年4月の会員数の変移が示された。

平成15年度の各都道府県協会への還元金が示された。

ファミリー会員の扱いを各都道府県協会会員に移行することに伴い、平成17年度より日本協会が扱った場合の還元金を廃止することについて、秋の理事会に提出し、了承を得たい。会員増加のために各都道府県協会宛に目標値を設定し、通知する。

13. その他

沖縄県の小学生審判講習会で使用された審判講習ビデオが良くできているので何らかの形で公に出来ないか研究中であることが報告された。

市原副会長から、問題山積の現状と、それを着実に消化していくことの重要性が述べられ閉会となる。

がんばれハンドボール10万人会「サポート会員」6月入会・継続会員

【北海道】小笠原久郎、小笠原一朗、清水幸彦、内海辰哉、髙橋英樹、西畑明哲【茨城】武藤康夫【群馬】酒井　宏【東京】増渕潤一、川村浩一、小笠原泰代【神奈川】松井幸嗣、河野卓也、臼井鉄久【福井】谷口信二【愛知】禰津行雄【京都】審　愛玲【大阪】下佐古明彦、伊藤慎吾、山本正明【鳥取】松原春子、松原理裕【岡山】村木理英【広島】福井恵二【愛媛】越智　武【福岡】日野祐一郎【熊本】高木徹郎【大分】伊藤道良

【8月の行事予定】

8月1日(日)～8月7日(土)
高松宮記念杯第55回全日本高校選手権大会(山口県)
8月7日(土)～8月8日(日)
第31回全国高等専門学校選手権大会(愛知県)
8月10日(火)～8月14日(土)
西日本学生選手権大会(大阪府)
8月11日(水)～8月13日(金)
第9回女子ジャパンオープントーナメント(岡山県)
8月14日(土)～8月17日(火)
第9回男子ジャパンオープントーナメント(岡山県)
8月14日(土)～8月16日(月)
チェリーカップ第12回東日本小学生大会(山形県)
8月15日(日)～8月18日(火)
東日本学生選手権大会(北海道)
8月21日(土)～8月24日(火)
第33回全国中学校大会(千葉県)
8月25日(水)～8月30日(月)
第8回日韓スポーツ交流
(受入／女子)(沖縄県)

HAND BALL CONTENTS AUG

(登録チームの購読料は登録料に含む)

MIKASA®
http://www.mikasasports.co.jp

HANDBALL

高いグリップ力を実現！
ミカサの人工皮革ハンドボール





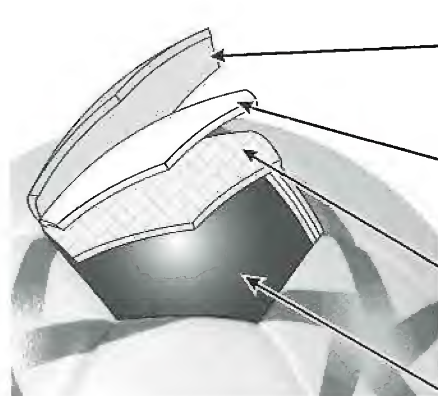
HP300

検定球3号、人工皮革
男子(一般·大学·高校)
カラー：イエロー

HP200

検定球２号、人工皮革
女子(一般·大学·高校)・中学校
カラー：イエロー

数々のテクノロジーがプレイをサポートします



株式会社 ミカサ

(財)日本ハンドボール協会編　『ハンドボール』　第四五二号
昭和四十年六月七日　第三種郵便物認可
平成十六年七月二十六日印刷　平成十六年八月一日発行
東京都渋谷区神南一─一─一
電話　代表　三四八一─二三六一
振替　〇〇二〇─七─一〇二九三
編集兼発行人　大西武三
定価　年間三三〇〇円